

## 令和 6 年度第3回幸手市地域公共交通あり方検討会 会議録(要旨)

|      |                                          |
|------|------------------------------------------|
| 日時   | 令和 6 年 12 月 26 日 (木) 午後 6 時から午後 8 時 30 分 |
| 場所   | 幸手市役所第二庁舎 2 階 第 2 会議室                    |
| 参加委員 | 井野則明 鈴木徹夫 小森谷進 小曾根昌雄 今井謙悟<br>細川壽江 寺川直樹   |
| 事務局  | くらし防災課長 野川、主幹 落合、主任 小林                   |

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

### 3 議事

#### (1) 前回の振り返り

第2回会議録(公表用)を用いて、第2回あり方検討会における検討内容を確認。  
委員からの指摘事項を修正し会長に確認後、公表することを承認(賛成全員)

#### (2) 検討のための基礎情報の確認

八千代エンジニアリング株式会社加藤様から資料の説明。

#### ○各委員からの意見等

- ・ 8 ページについて、それぞれの地域別に買い物先の例を挙げていただいているが、それぞれの母数を示していただけると傾向がよりはっきりとわかる。
- ・ 21 ページについて、人口に対して中央コースの利用割合は他のコースに比べて高い傾向にある。一人暮らしの高齢者の数は中央も東西も同じくらいの割合なので、お一人暮らしの高齢者の方のニーズは高いと考えて良いと思う。
- ・ どのような方が公共交通を利用するかという視点に立った時に、基本的には、全市民の方が使えるのが前提だが、その中でも特に高齢者の方等を意識した方が、利用数を上げるためにも、使い勝手を良くするためにも良い。
- ・ 20 ページについては、人口に対して利用している人の割合は低い。なぜ低いのかを読み解いていかないと、最終的には「低い」という客観的な事実のみが残ってしまう。コンサルの立場から挙げられる課題についてご教示いただきたい。

→八千代エンジニアリング： 東コースは人が薄く分布しているところを走っており、元々人口が少ないことに加えて、循環バスによる移動では時間がかかることから、自分で行ってしまおうと思う方もいるのではと考えている。また、中央

コースは沿線に駅や店舗が集中している中を走っているため、中央コース沿線に住んでいる方だけでなく、住んでいない方も利用しているので利用率が上がっている可能性が考えられる。

- ・ 中央コースについては、より細かく乗れる場所を作ることによって利用効率が上がるかもしれない。また、東コースについては、コース取りの問題と手段の問題であると感じた。循環型のバスよりもデマンド型の方がこの地域の方のニーズに合う。その場合、自宅からウェルス幸手などの拠点に運び、中央コースへつなぐ組み合わせも良い。

→八千代エンジニアリング：人口が薄く広がっている地域は、線で結ぶよりも、予約があったところに一点、一点行く方がご利用いただける可能性が高まると考えられる。

- ・ 乗り乗り Week では、東西コースはたくさん利用されたのか。

→事務局：乗り乗り Week の無料期間中は、1日平均で11月の1.5倍の160人にご利用いただいた。東西のコースも乗ったことが無かったので乗ってみようという方もいらっしゃったが、中央コースに乗った方が一番多かった。

- ・ その自治体の人口を100とした場合に実際の交通弱者が何パーセントおり、その交通弱者のうち何パーセントが公共交通を利用していけば、事業として「良し」と考えられるのか。

→八千代エンジニアリング：事業評価について、実利用者数の割合や収支率を指標とする場合もあるが、それだけで測れるものでもない。

→事務局：幸手市では、市内に交通弱者が何人いて、そのうち何人が利用したかを事業評価の指標として設定していない。

- ・ 東地域に住んでいるが、免許を返納した後は、何らかの公共交通がないと買い物や通院に行けない。現状のままで循環バスを運行するのであれば、バス停をもっと増やして欲しい。
- ・ 循環バスが運行する前のデマンド交通の状況が資料に示されていない。デマンド交通だった時の利用状況についても知りたい。
- ・ 次回の検討会の際になぜ、デマンド交通から循環バスに戻したのかという検証ができるようなデータがあると議論を深められる。
- ・ 東コースはバス停まで行くのも大変だろうと思う。また、東Bコースはウェルス幸手で終わってしまうので、もう少しバスが行けば、街中の目的地まで行けるのという話も聞く。
- ・ 乗継はあるが、もっとコースを延伸してあげれば東コースも利用が増えると思う。
- ・ 乗継のポイント(ウェルス幸手)の使い勝手が良くなく、むしろ市役所の方

が乗り継いだ後色々出来るので使いやすいことから、市役所のような乗継の良さをウェルス幸手に持たせると、「どこへでも行ける」という効果は変わらなくなる。乗換え場所の利便性が高くなれば、2回乗り換えなくてはいけないといったような抵抗感はなくなるのではないか。

### (3)公共交通に関する市民アンケートの結果について

事務局から公共交通に関する市民アンケートの結果について説明。

#### ○各委員からの意見等

- ・ それぞれ地域によって特性があると思うので、地域別にそれぞれの項目の結果が見たい。
- ・ 利用したことがない方に注目をして、各項目がどのように偏ったのかを見るとなぜ利用が伸びないのかの答えが導き出せる。
- ・ アンケートの回答率が低いのは、関心が低いという事か。また、ばらつきも今回と同じような状況だったか。

→事務局：2年前にも同様の手法でアンケートを実施しており、今回よりも若干少ない回答数だった。また、今回同様に東地区のご回答が少なかった。

→委員：関心が低い、だから使わないという問題もある。

### (4)幸手市のニーズに合った公共交通について

※第2回検討会までに出了意見等をまとめた公共交通形態イメージ図を元に委員全委員で議論を行う。

#### ○各委員からの意見等

- ・ この会の議論の着地点はどこか。
- 事務局：本年度の検討会では、地域毎の公共交通の形態について、4回の検討会でご意見を出していただきたい。次年度以降に公共交通会議や庁内会議にてバス停の位置や路線について議論し、検討会の委員の皆様にもお示ししてご意見を頂戴できればと考えている。
- 委員：根拠をお示しする必要があると思う。デマンド交通から循環バスに戻ったが、十分に分析がされないままだった。今回の案についても分析した結果を出さないといけない。
- 事務局：最終的に市が作る案については、その根拠をお示していく必要がある。あり方検討会では、今回ご説明した基礎情報やアンケートの結果を踏まえてご議論いただきたいが、こうだったらいいなという皆様のご希望も含めて案を作っていただいて良いと考えている。

- ・ 交通弱者や通勤通学者などターゲットによって、ニーズが変わってくると  
思いますが、全ての人ということでよいのか。
- 事務局：現在の市が運営する公共交通は日中の高齢者の足の確保という  
ことで運行しているが、検討会では対象も含めて検討していただきたい。
- ・ 乗継場所を利便性が高いところにした方がよい。色々な方向に路線が伸び  
ているから市役所が便利だったのであれば、市役所にその機能を持たせた  
まま、東西は、縦に複数本、中央につながる路線を入れれば、面積的にも  
カバーしながら利便性が高まる。
- ・ 西地域は、デマンドで東鷲宮駅や市役所、ウェルス幸手に行けるようにな  
れば、満足できる。
- ・ 料金や経費面について考えなくてよいのか。
- 事務局：料金については次年度以降に検討する。また、現段階では経費面  
は強く意識してしなくてよい。
- ・ 循環バスを双方向にし、かつ、循環バスのルートにウェルス幸手を入れる  
ことで、東地域の方も 1 回は乗り換えるけれども市内の色々なところに  
回れるようになる。
- ・ デマンドの使いやすさをもう少し整理して、東地域の方については、極力  
自宅に近いところで利用できるようにすると使い勝手が良くなる。
- ・ 循環バスの停留所とデマンドタクシーの停留所との接続をうまく図れば  
よい。
- ・ 自宅に近いところから循環バスの拠点に行ければ、時間が短縮できるし、  
タクシーの様に高くなくて良い。
- ・ デマンド交通をより使いやすくするためには、予約時間を短くすることが  
必要。
- 委員：以前のデマンド交通では、通院など予定が分かっていたら先に予約  
ができたが、30 分前に予約をしたのでは、予約がいっぱいになってしま  
っていて取れなかった。
- 委員：直前予約では予約が取れないというのは、車の大きさか、台数か、  
需要に対してミスマッチだったのか。
- 事務局：幸手市全域を 2 台で運行していた。また、乗合への抵抗感から、  
既に予約が入っているのであれば乗らないという方がいた。
- ・ 乗合が嫌でキャンセルした。キャンセルするまでは、直前まで予約が入っ  
ているので、他の方は予約が取れない状況があったのだろう。デマンド交  
通が悪いというわけではなく、運用の仕方に問題があった。
- ・ 高齢になると家の近くから乗りたいというニーズがあるので、固定のバス停  
では、利用が難しくなる。

- ・ 高齢者の動きたいときは「すぐ」であり、そこをわかってあげないと「面倒くさい」になってしまう。
- 事務局：心情はわかるが、そのご希望に対応できるのは、普通のタクシーかと思われる。
- ・ 東はイメージ図の通りだと思うが、西は人口メッシュが厚いにもかかわらず使っていないので、東とは別の要因があると思われる。次回までにアンケートで公共交通を使っていない方の結果から導き出していきたい。
- ・ 西地域については、路線バスが休止になった要因が収支の関係であれば、路線バスの規模を縮小して運行するか、コミュニティバスとして市の負担を入れながら運行する方が良い。
- ・ 西地域について、通勤通学用に大人数を輸送ができる交通手段が欲しい
- ・ ごかりん号と同じように、朝夕はコミュニティバスとして使い、日中はお買い物のニーズが多かったのも、ピンク(中央地域のコミュニティバス)の中に入れ込めば、ニーズに合い、かつ車両を無駄なく、時間に合わせて効果的に必要なところに行ける。
- ・ (西地区の)コミュニティバスの延伸については、朝晩の時間帯を希望なのであれば、朝晩以外の使っていない時間帯は中央地域で車両を使えば無駄がない。
- ・ デマンドを走らせる中で、青い線のところは、朝夕だけは需要が大きいのであれば、コミュニティバスも検討するという整理であれば、今循環バスを利用されている方も理解しやすい。
- ・ デマンドと循環バスの両方を走らせるのか。中央はコミュニティバス、東西はデマンドだけか。
- 事務局：前回の検討会では、循環バスの可能性もあったが、循環バスをどうするかについても、御議論いただきたい。
- ・ 東地域は、住んでいる方のニーズに合っていないためにコミュニティバスの利用が少なく、かつ、アンケートの回答数も少ないことから公共交通に対する関心が薄くなっていることが伺える。使いやすい形を提案することによって、公共交通への関心を持っていただいた方がよい。また、タクシーほど利便性は高くないが、安価で中央に行ける手段としてデマンド交通をご提案したい。
- ・ 西地域は、東地域とは違う人口分布なのに、なぜ利用しないのか傾向性が分からない。
- ・ 前回のデマンド交通の使い勝手が悪かった反省を生かして、もう少し使い勝手の良いデマンド交通を導入するのであれば、やって欲しい。
- ・ あいあい号のバス停ができるだけで、周辺の方はコミュニティバスが使い

やすくなる

- ・ 近隣市町との連携も大切。

※検討時間終了のため報告事項に移る。

#### 4 報告事項

##### AI オンデマンド交通視察報告

議長：市の公共交通について課題等をお話いただいたが、これらの課題を 16 年かけて乗り越えた三条市の事例を紹介する。

幸手市では、デマンド交通が不評で利用されなかったが、なぜ利用されなかったのか議論がされないまま撤廃されてしまった経緯があった。三条市は、試行錯誤した結果、利用が増加した例であり、その取り組みが国土交通大臣賞を受けた有数の先進事例である。

※詳細について報告。

#### 5 その他

##### (1) 公共交通網へのご意見について

第 4 回検討会に向け、今回までのご意見を集約したイメージ図とご意見書を配布するので、令和 7 年 1 月 15 日までに事務局にご回答いただきたい。

##### (2) 次回日程 令和 7 年 1 月 31 日 午後 6 時から

##### (3) ご連絡方法について

#### 6 閉会